

生徒とのふれあい13

教えることは教えられること

谷内 純一



高校二年生のA君は授業中ちつとも勉強しない生徒でした。あるとき漫画の本を机の上

に堂々と出してにやにや笑っていたので、授業が終わって、図書職員室に呼んで注意しました。彼は「気分が悪いがよえ」とふてくされた対応でした。

年度末いくつかの教科で成績不合格で落第は避けられないことに彼は気づきました。彼は図書職員室の私のところへ来て「作文を書くことで成績を合格にしよう」と頼みました。私は断りました。すると、彼は帰り際「先生、もし僕が退学することになったら、

お礼参りにきます」と言って帰りました。居合わせた女先生が「すごいことを言いますね」と驚いていました。

後日、校内で彼のことが話題になった時、先輩から「彼は小学校六年生の時、近所の店で万引きをして店のおばあさんに見つかって自分の母親が呼ばれた際、『おばちゃんやるとい

うたやいか』と言いはり、おばあさんが『どうして私がそんなこというかね。うそを言いなさ

んな』と言っても、何時間も『おばちゃんやると言うた』と繰り返して、根負けしたおばあさんが『そうかね。そうかね。もういいわね』で

すませたという口付きの生徒だよ』と聞かれました。

次年度、留年した彼の国語をまた私が担当することになりました。彼は作文で「映画エディ・マーフィーの『星の王子さまニューヨークへ行く』

の中で”人は跳ぶことを学ぶよりも、歩くことをまず先に学ぶべきだ”という言葉に出会った。僕は今年は地道にコツコツと歩いて行き

たい」と書きました。私は「元来頭の良い生徒なんだ。今年は期待できるかな」と思いました。

ところが、やつぱり、一年間通して勉強せず学年末には国語も含めて進級できない成績に終わったのです。同じ学年を三

回続けることはできない決まりです。彼は退学しました。

高知市の定時制高校に転校しました。そこは剣道部がなかったの僕が創部し、今年の県下の定時制高校体育大会で優勝し、全国大会へ出場することになりました。ついでには旅費にカンパをお願いできま

せんか』と言って奉加帳を差し出しました。私は驚いて「そりやあ、よかったねえ」と言

って、千円カンパしてやりました。そして「こ

ろで、君はこの学校に在学していた頃はいつも仏頂面をして、不愉快を周囲にま

き散らしていたが、どうしてそんなに明るくなれたのかね」と尋ねました。

すると彼は少しはにかんだ表情をみせて「あるとき、どうせなら、

仏頂面で生きてゆくよりはニコニコして生きてゆく方が良いかなと気づいたからです」と答えました。

その後ちよくちよく図書室に明るい顔を見せるようになりました。

A君のことはすっかり忘れたある日のことでした。図書室に彼がやってきて満面に笑みを浮かべながら「先生僕はこの学校を退学して、

高知市の定時制高校に転校しました。そこは剣道部がなかったの僕が創部し、今年の県下の定時制高校体育大会で優勝し、全国大会へ出場することになりました。ついでには旅費にカンパをお願いできま



可愛らしいガールフレンドを連れてきたときは「先生、彼女には僕がこの学校にいたころのこととは話さないでください。僕は彼女には何にも話していませんから」と口止めしました。彼の妹が入学するときには親代わりとして彼がついて来ていました。A君が自ら悟り大変身を遂げたことはまさ

に回天(かいてん)の業(わざ)だと思いました。A君との三年間にわたる関わりは「人はだれでも明るく生きてゆくこと・伸びてゆくことを望んでいるんだ、信頼するに足る存在なんだ」ということを教えてくれた貴重な経験でした。

祝！ 国松勝さん 県出版文化賞受賞

第67回県出版文化賞に国松勝さんの作品集が選ばれました。「洋画家の国松勝さんの『国松勝作品集』(弘文印刷)は、ライフワークである日曜市や土佐の民家を描いた約70点を収載(高知新聞2月3日付)

高知新聞の紹介のよ

うに、日曜市や民家など国松ワールドをたっぷり堪能できる作品集です。受賞おめでとうございます。

なお、高退協ニュース240号(2023年1月1日号)に、昨年11月27日に盛大に行われた「出版を祝う会」の報告が掲載されています。改めてご覧になってください。(大川法由記)



日曜市を描いた作品(作品集より)

高知新聞の紹介のよ